



認知症サポーター養成講座に傾聴ボランティアが参加

ボランティアがスキルアップ 「認知症を学ぶ」

社協が設置するコミュニケーションバンク(傾聴ボランティア実行委員会)は、山本幸子氏(江別認知症オレンジの会)を講師に招き、認知症の原因をはじめ、中核症状や行動、心理症状などについて学びました。

認知症について正しく理解することで、認知症の方やその家族に対して温かい目で見守ることのできる地域の「サポーター」としての役割が期待されます。「柿色」をしたオレンジリングは、認知症サポーターの目印です。



43名の傾聴ボランティアが参加し、認知症の正しい知識を習得しました。

認知症の人への対応の心得 “3つの「ない」”

1. 驚かせない
2. 急がせない
3. 自尊心を傷つけない

具体的な対応の7つのポイント

- まずは見守る
- 余裕をもって対応する
- 声をかけるときは1人で
- 後ろから声をかけない
- 相手に目線を合せてやさしい口調で
- おだやかに、はっきりした滑舌で
- 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する